

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
67

2019 霜月・師走

特集／次世代ネットワーク交流会

地域・世代を超えた交流、

盛会裏に終える

特集 次世代ネットワーク交流会

地域・世代を超えた交流、盛会裏に終える

「未来を憂い、行動しようとする者が集い、互いに磨き合い・励まし合い、大きな推進力となって活躍しよう」という大澤隆管長の呼びかけに応じ、およそ100名の参加者が集まった次世代ネットワーク交流会が盛会裏に終了した。

リアル・アラフォー男性を入門に向けて動機づけろ!!

講習ではなく交流

「本当の仲間ができますよ!」

「体幹が鍛えられて、自分の身体の変化が感じられますよ!」

ステージ上でさまざまに金剛禅の魅力が訴えかけられる。

次世代ネットワーク交流会では、初日に「金剛禅の魅力を伝える」をテーマに班別ミーティングを行い、二日目に代表2班によるリアル・アラフォー男性へのプレゼンテーションを行った。冒頭の言葉は二日目のプレゼンテーションで的一幕だ。

中でもリアル・アラフォー男性二人の心を打ったのは、17歳・高校生の参加者による言葉だった。

「僕は、道院で作務さむという仕事を教わり、日々、家庭でも実践しています。金剛禅の修行によって、僕のような人間になれるのです」



リアル・アラフォーは、ご協力いただいた多度津町青年部の方々(少林寺拳法未経験)

プレゼンテーション終了後、司会者の「入門に向けて動機づけされましたか?」という問いに、壇上の二人が出した答えは「イエス」。

その後、二人からのフィードバックでは次のような声を得た。

- ・実際に修行された人の体験談や実感は、自分に重ねて感じ取ることができた。

- ・ただ、自分に興味のないテーマでどれだけ魅力を語られても、心が動くことはない。

- ・入門希望者がどんなことに興味を持っているのか、聞き出しながら進めてもらえる

と、動機づけの効果は高まると思う。

去る9月7・8日に行われた次世代ネットワーク交流会は、本山にとって画期的な事業であると同時に、原点回帰の事業でもあった。

参加者は見習いから八段、所属も宮城から沖縄までと、非常に多彩な拳士が集まり、講習ではなく交流をメインに楽しんだ。

あらかじめ分けられた班編成は、都道府県・年齢・性別をさまざまに織り交ぜて構成されており、参加者からは、「古い先生方から聞いた、かつての講習会の雰囲気味わえた」という感想も多く聞かれた。

「かつての講習会」とは、開祖時代に行われていたものを指していて、そのころの講習会は、すべての参加者に対して本山が自動的に宿舎を割り振っていたので、新しい同志との

出会いの場でもあった。

元来、運動体であるわれわれの活動は、仲間づくりでもある。

限られた仲間と技法や教えを深めていくのも楽しいことであるが、こうして新しい仲間と意気投合し、今後の金剛禅運動の可能性を語り合うのも、また、掛けがえのないことである。



修行空間の演出

都合4回に分けられた易筋行^{えつきんぎょう}では、基本・法形を主な題材に、そこに込められた意味を掘り下げ、法(真理)をつかみ取って応用変化に至ることをテーマに、修練法や捉え方などを、講師・参加者共に確認し合った。

交流会ではあえて、技の掛け方・ノウハウを語る時間を削減した。二人(もしくはそれ以上)で修練に取り組むことが、新しい気づきや考え方を身につける心地よい時間となるように、修行空間の演出に重きを置きたいと考えたからだ。

「ネットワーク」という言葉には、この先もつながりを育んでいってほしいという願いが込められている。交流会で感じたヒントが、参加者の今後の修行で生かされることに期待したい。



プログラムの様子

「健康増進を体現するストレッチと技法」

全国でストレッチ専門店を展開する「D.E.ストレッチ(ドクター・ストレッチ)」より小芝颯太講師を迎え、少林寺拳法の修練に合わせた適切なストレッチ手法を学んだ。小芝講師によると、少林寺拳法の修練では体幹をよく使うので、肩・首・股関節回りなどのストレッチを適切に行うことで、動きの質を保つ・高めることができるだろうとのこと。閉会後に行った希望者対象のプログラムでも、講師への質問が殺到し、参加者の関心が高いことが伺い知れた。



フォーラム「What Can You Do?」
絵本を通じて

「絵本で広げよう金剛禅プロジェクト」より三浦伸也顧問を迎え、絵本の読み聞かせを通じて感じ取る可能性をテーマにフォーラムを行った。読み聞かせは、聞く側以上に読み手にとって新しい気づき・発見に富むものであること、絵本以外にも、異質なものをあえて道院に取り込むことで化学変化が生まれるかもしれないということを多角的に探るフォーラムとなった。道院の日々には「人生をどう生きるか」という問いの機会が数多く含まれていることを再認識する有意義な時間であった。





出張・手打ちうどんのふるまいには長蛇の列が



参加者が各地の特産品を持ち寄り、皆で頂いた



プロジェクト委員、本山・本部職員によるまかない



世代・立場を超えた語らい

●次世代ネットワークプロジェクト
委員(企画・運営)

村田 素彦	三井 純一	増井 友哉	中島 正樹	永江 健将	倉本 亘康	海沼 実	浅井 昌典
加古川米田道院	京都明珠道院	綾瀬深谷道院	八王子富士森道院	京都修学院道院	琴弾道院	東京西品川道院	浜松渡瀬道院



「豊かな人間関係が続くことを期待する」という宗由貴師家のあいさつ。この後、大澤隆管長による激励の言葉で締めくくられた。地元に戻った100名の参加者が、今後さらに強固なネットワークを構築してくれることを願ってやまない。

閉会式





開祖語録 ダイジェスト

1978年4月

定例道院長会・武専



※この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禅総本山少林寺を意味しています。

世界的視野で見るなら、日本は本当に今、アジアの孤児、世界の孤児になりかけているところに来ています。経済的にも世界中の市場から締め出され、下手すると中国をまた敵にするおそれだってある。そんなもろもろを考えてみると、少林寺拳法だ、チャンバラだ、うちの弟子はどれだけだ、俺は先生といわれるほど偉いんだ、すごいんだ……そんなこと言ったり、やってる時代でないことが分かるはずだし、分からなさいけない。

本当の極楽浄土というものは、あの世で目にかかればいいのでなく、この世に人間がつかめるべきものです。われわれが行動の中で成すべきであって、空念仏ではだめなのです。もちろん日本だって生きなきゃならない。でも、かつてのような、「日本だけ、自分だけ」はいけない。アジアの後進性をなくしていく、その中でしか日本は生きられないということを知るべきである。

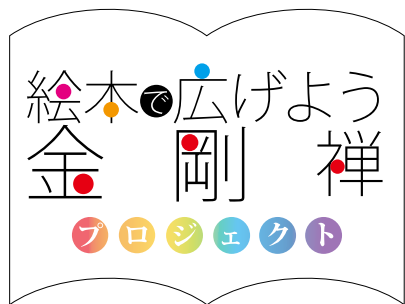
が、そのためには、まず日本と中国が仲よくしなきゃいけないし、互いが幸せになるため

社会に対応した変化、 これも求められて当然じゃないのかな

の政治や経済の仕組みをつくる以外に、われわれの幸せもないとは思いません。「目先の現象やらに振り回されるな」と常々言う意味もここにある。それを、ちょっと状況が変わった、気分がどうこうだからコロッとなんてできるだろうか。

少林寺のあり方が時に変わるのには、変わるべき必要があったときです。しかし、本質をたやすく変えてはいけません。信念を簡単に捨てたら、これは全部がうそになる。ですから、私たちが信じて行ってきたことは、これからも続けます。でも、社会に対応した変化、これも求められて当然じゃないのかな。

昔できなかったことが、今はできるようになった。去年なかったことが、こしはありえるというような、いろんなことがいっぱいある。年々歳々というが、今は時々刻々に変わっていくつあるし、秒読みといわれるくらい変化が激しい時代です。ですから、少林寺の場合も、やはり変わるべきは変え、また、現にそうしてきたからこそ、ここまでに至る発展があった。



四日市富田道院
平田垂沙子

シンプルに絵本と向き合い、選ぶことができるようになりました。絵本の最大の魅力は、武階もろもろを超えて発信できることだと思います。まだ緞拳士の私にとっては、自分から道院の一員として関わることのできる、数少ない手段です。自分の感性と向き合い、何か与えるとかではなく、ただ共有するだけの時間が、ささやかな楽しみや幸福であればいい……。それが自他共楽の種になればと願いながら、私はきょうもページを開いています。

絵本が自他共楽の種になればと願いを込めて

「道院で絵本を読むらしい」と聞いたときの第一印象は、「へえ、おもしろそう」。単なる好奇心からの気軽さで、読み聞かせに参加しました。最初に道院で読んだ『あれこれたまご』は、昔、息子によく読んでいたもの。当時の子育てを思い出し、「いつぶりだろう」という感慨と、久しぶりに誰かのために読むという懐かしさで、私自身がとても幸福を感じました。再び絵本を手に取り始めて気づいたのは、世にあふれている本の多さ。何を読めばいいのか途方に暮れた中、ある方に、「自分がいいと思った本を読めばいい」と聞いてから、

今回読んだ絵本

◎あれこれたまご

文：とりやまみゆき

絵：中の 滋

出版社：福音館書店



卵は物価の優等生とよく言われます。また卵はさまざまな料理に変身できるたのもし素材でもあります。目立つようで目立たない、それが卵です。そうです、卵は「あれになりたいこれになりたい」と、常に変身願望をもっています。はぎれのいい関西弁でつづった卵料理絵本です。(福音館書店ウェブサイトより引用)

協力原理を根底に持つ修行

少林寺拳法が心の修行であるためには、それを「どう修練するか」が極めて重要です。繰り返される身体の「はたらき」を通して、心の「はたらき」方も培われていくからです。協力し合うことで上達していく修練では、結果として、協力し合う心の在り方や態度を培うことになり、反対に、相手を否定することで上達していく修練では、結果として、否定する心の在り方や態度を培うことになります。もちろん、人の心のはたらきはそう単純ではありませんが、原理的にはそうなります。

では、どんな修練であるべきか。「少林寺拳法教範」の記述を手がかりに考えます。

例えば、「精神修養」について開祖は、「精神修養」というのは、自我すなわち己の魄を修め、霊性である魂を養って、人が霊止としての働きをまっとうするように修行することを言っている」と述べられています。

「魄を修め」とは、魄は「自我すなわち本能的な意欲や情動を起こす」心のことですから、そうした心の暴走を抑えること、と解釈できます。一方、「魂を養って」とは、魂は「人間のみが持つ知性や徳性の発現を促す霊性」であり、「ダーマよ

り受けた分霊としての良心」のことですから、そうした心を大切にしながらに育むこと、と解釈できます。

また、かつての「教典」には、「聖句」の一節として、次の句がありました。

「すべて悪しきことをなさず、善きことを実践し、自己の心を浄むること、これ諸々の佛の教えなり」

「七仏通戒偈」という「法句経」の一節です。

この一節と、魂と魄の例えに共通することは、つい暴走しがちな自分中心の心の働きや行動を抑え、そして、慈悲の心に基づく知恵や心のはたらきをさらに育むことを、繰り返して実践するということです。

そして、日常ではままならない実践だからこそ、修行である修練の中に、その実践がなければなりません。

とはいえ、相手を制するという技術です。勝ち負けや優劣の誘惑もありますから、もともとある自分中心の心が、つい無意識に暴走して、技が強引になったり、相手を手荒く扱ったりする瞬間もあることでしょう。ならば、理性でこれを監視して抑えなければなりません。「魄を修

める」です。そうして、一方では、相手と一体感のあるいい修練を繰り返します。お互いの違いを生かし合って、調和のある修練が楽しめたときは、心地がいいものです。その体験の積み重ねは、潜在意識に働きかけて、心のよい栄養になることでしょう。「魂を養う」です。また、その基本は、お互いを敬う心、リスペクトがあることです。合掌礼の意味に通じる心がけです。初めと終わりの合掌礼がおざりになっていないか、常に確認も必要ですし、何より修練前の鎮魂行で、そうした気持ちを持たせる仕組みにもなっています。

開祖が創始された少林寺拳法の価値とは、その技術もさることながら、競争原理が幅利かせるスポーツや武道とは一線を画して、共に切磋琢磨しながら一緒に成功を味わい、その方法を学び、そして一緒に成功することの意義を体験として分かっているという、協力原理を根底に持つ修行の世界をつくられたことにあります。そして、それを社会での実践につなげようとされたことにあります。その志に応える修行となっているか。日々の修練を常に振り返り、行としての精度を高めていきたいものです。

わたしの工夫

第14回

道院運営へのヒント・・・
もって道院の活性化、拳士の育成につなげていこうというコラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは・・・



みえうえの
三重県・三重上野道院
みなみ てつお
南出哲男 道院長

工夫 幹部拳士と常に話し合い、意見に耳を傾ける

道院長一人の能力には限界がありますから、一緒に協力してくれる幹部拳士を育てるために、運営体制に巻き込んでいます。

毎年12月に幹部拳士を集め、1年間の行事計画を皆でつくり、見通しを立てます(図a)。

また、月の最終土曜日は一般拳士のみの修練日とし、20時半には修練を切り上げ、その後、一般拳士で会議を開き、行事の段取りや修練環境の改善などについて意見交換をします。

そこでは、私は一方的に話すことはせず、皆に自由に発言できるようにしています。すると、さまざまな意見が出てきて、一般拳士の参画意識が高まり、一体感も出てきて、皆で道院を盛り立てていくようになるんです。

このように、幹部拳士と常に話し合いの機会をつくり、意見に耳を傾けることに継続的に取り組めば、必ず幹部拳士が育ち、道院に活気が湧いてくるはずですよ。

以下に、幹部拳士たちとの話し合いで生まれた道院活性化のアイテムをいくつか紹介します(図b～d)。

▲(図a)「年間行事表」



◀(図c)
「ひらがな教典」(幼年向け)

◀(図b)
「入門／転籍・復帰書類セット」(組織制度の説明、道院内での約束事や各種手続き方法などを、17ページにわたってガイドしている)

▼(図d)
「参座カード」(階級によって色分けしているのも工夫)



道院長

vol.49

元気^の素熊本県・阿蘇^{あそくすい}白水道院道院長 藤本^{ふじもとてつあき}哲章 (53歳)

(次世代ネットワークプロジェクト委員)

生涯続けてください

私は、高校卒業後に愛知県の日本電装(株)に就職し、配置先の西尾製作所の支部で少林寺拳法に出会いました。入部1年後に、工場移転のため、三重県の大安製作所の支部に3年間在籍しました。監督をはじめ諸先輩方の技の切れに感動し、いつかは自分も先輩たちのレベルまで追いつきたいと修練に明け暮れていたことを、今でも思い出されます。その後、家庭の事情で退職。1989年に、地元熊本の南阿蘇村役場職員になりました。道院長を志すきっかけとなったのは、会社を退職する際に、先輩方より「熊本で道院長になれよ」と言われたこと。また、昇級試験受験のときのレポートに、「今あなたは燃えていますね。その火を消さないよう小さな種火でもよいから生涯続けてください」と、ある先輩が書いてくださったことです。

一人一人をしつかり見る

修練において、作務^{さむ}は欠かせません。修練の始まる20分前には、みずから掃き掃除を始め

ます。そこに次々と拳士が加わっていき、19時ちょうどに修練を開始します。修練は、鎮魂行に始まり、道院長の一言、基本、実技、学科法話で終了となります。

修練で心がけていることは、楽しく修練すること。そして、一人一人の拳士の様子を注視しながら、練習内容を組み立てます。少年部、一般共に「科目表」に沿った技の反復練習、特に基本を身に付けることを重視しています。

拳士の成長が喜び

現在は、20名ほど在籍しています。田舎であることと少子高齢化の進む中、拳士の確保には苦労しています。しかし、継続している拳士にとどまらず、設立当時に入門した拳士が今では30〜40歳台になっていますが、家庭や職場で頑張っている姿や、地元から離れている拳士が帰省するたびに訪ねてきてくれるなど、拳士たちの成長が見られるのも大きな喜びの一つです。

道院長を続けられているのは、家族や拳士、職場、地域の方々の協力があることであり、特に家内には大変感謝しています。

拳士の行動力から学ぶ

熊本地震から3年が経過し、復興もかなり進んできました。全国の拳士の方々からのご支援と励ましもあり、当道院の拳士も「何か」を「行動」に起こさなければと考え、各々がさまざまなボランティア活動に参加しました。

震災当初は、修練ができないもどかしさもありましたが、団結力の必要なときに拳士みずから率先して活動してくれたことには、道院長と



して頭が下がる思いでした。
このような経験をしていたところ、この4月より2年間、次世代ネットワークプロジェクト委員として活動してほしいと本山から要請がありました。

震災後の拳士たちのボランティア活動に負けないよう、金剛禅の教えと少林寺拳法の行法を次世代に正しくつなげ、新たな道院長の誕生に向けて、他のプロジェクトの先生方と協力して活動していきたいと思っています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

本山

開催報告

● 本山公認教区講習会(派遣講師)

〔7月13・14日〕宮城県教区・岩手県教区(柳川瀬一美)

〔7月28日〕三重県教区(川端哲)

〔8月25日〕福島県教区(原宏)、埼玉県教区(三柴始)、福岡県教区(中山文夫)

● 教区研修会

〔7月14日〕岡山県教区(松本好史)

〔7月21日〕愛知県教区、神奈川県教区、茨城県教区、石川県教区

〔7月28日〕滋賀県教区

〔8月25日〕山梨県教区

〔9月8日〕福井県教区

● 小教区研修会

〔7月13日〕神奈川県央第一小教区・神奈川県央第二小教区

〔7月21日〕大阪高槻・茨木小教区

〔7月26日〕岩手盛岡小教区

〔8月18日〕和歌山海南・中紀小教区

梅津道院

2019年度梅津道院演武祭開催

2019(令和元)年7月14日、設立以来続けている39回目の演武祭を開催しました。

拳士50名、来賓・来場者30名が参加し、日頃の修練の成果を

発表しました。

演武祭に合わせ、募金活動も行い、京都新聞社福祉事業団と日本ユニセフ教会に、同じく39回目の寄託をさせていただきま

した。(寺倉一豊)

大阪堺道院

設立55周年祝賀会

8月25日、金剛禅総本山少林寺大阪堺道院55周年記念祝賀会を開催いたしました。大澤隆金剛禅総本山少林寺管長ほか多くの来賓にもお越しいただき、総勢115名の盛大な祝賀会となりました。

古川繁浩元大阪堺道院道院長



(堺少林寺拳法協会会長)の祝辞に始まり、鈴木義孝SHORINJI KENPO UNITY顧問に乾杯の音頭をとっていただき、歴史を振り返るDVDを鑑賞するなど楽しんでいただけました。

最後は全員で「少林寺拳法の歌」を歌い、大阪堺道院ならびに少林寺拳法の未来への発展を願いました。

尼崎潮江道院
道院設立15周年記念式典を開催

2019(令和元)年8月31日、尼崎潮江道院設立15周年記念式典を開催しました。稲村和美尼崎市長をはじめ、拳士のご

家族や道院OBなど、多数の方々にご臨席いただきました。

演武会では日頃の修練の成果をご覧いただき、祝賀会では日ごろの感謝をお伝えしながら、15年の歴史を振り返りました。縁で結ばれた仲間づくりの大切さを再確認し、道院がますます盛り上がるよう、拳士一同頑張っております。

山陽網干道院
(助教・石野 享)

藤岡宏先生の
七回忌に寄せて



の功績を称え偲ぶ会と演武会を開催しました。第一部の偲ぶ会では、故人を師とするゆかりの方々や、道院関係者、また鈴木義孝SHORINJI KENPO UNITY顧問にもご臨席をいただき、持ち寄った思い出の品や写真を見ながら、思い出話に花を咲かせました。

第二部の演武会では、16所属130名が参加し、「和顔愛語」の精神で力いっぱい演武発表を行いました。

藤岡先生の「志」に仲間とともに相親しみ、相援け、相生する、そしてより一層の融和と絆を強めることができました。

山陽網干道院
(助教・石野 享)

藤岡宏先生の
七回忌に寄せて

9月22日、故・藤岡宏大導師大範士八段(元山陽網干道院道院長)の七回忌に寄せて、故人



2019年8・9月度 認証

交代

貞光道院

妻形 淳

大和高田道院

日野 義弥

僧階昇任者

権大導師 ■2019年8月1日付

野田 千春(東京目黒道院)

黒瀬 好子(愛知朝日道院)

権中導師 ■2019年8月1日付

丹波 忠晴(八戸東道院)

鈴木 弘(八戸南郷道院)

佐藤 陽子(八戸南郷道院)

木村 豊(盛岡中部道院)

鈴木 新(茨城岩井道院)

横島 秋男(埼玉和光道院)

西田 俊也(埼玉川島道院)

菅原 卓雄(市川道院)

石橋 昌之(我孫子道院)

大野木 茂(東京国分寺道院)

佐久間 信夫(東京昭島道院)

串田 良(東京深川道院)

川島 佑斗(東京大塚道院)

水谷 朋博(東京昭島道院)

丸山 智(柏崎道院)

蟹江 満博(愛知原道院)

早川 誠(愛知神領道院)

宮崎 千代晴(亀山社中道院)

工藤 智也(三重津東道院)

佐藤 太亮(洛南道院)

高田 和代(海南黒江道院)

少導師 ■2019年8月1日付

貝原 敦(盛岡仁王道院)

中山 英久(仙台中央道院)

佐藤 考賢(宮城桃生道院)

倉持 恵(福島中央道院)

川窪 一徳(水郷潮来道院)

柴原 恵司(那須清峰高校)

柏 圭祐(二宮中部道院)

工藤 理紗(前橋中部道院)

金井 敏光(群馬伊勢崎道院)

新井 成(秩父道院)

高橋 千晶(埼玉白岡道院)

佐藤 崇明(入間藤沢道院)

佐々木 健人(埼玉上尾道院)

廣田 淳一(埼玉羽生道院)

渡邊 隆(浦安北栄道院)

高橋 一人(浦安北栄道院)

渡部 英規(東京千代田道院)

山口 淳一(板橋弥生道院)

雑賀 真良(東京表参道道院)

榎本 克彦(下高井戸南道院)

小林 俊介(東京茶屋坂道院)

唐澤 幸治(八王子富士森道院)

谷合 雄太(日野桜道院)

小林 雄大(八王子西道院)

青木 佑美子(杉並永福道院)

野木 麻美(下高井戸南道院)

生形 良隆(防衛省)

橋本 大季(東京大塚道院)

永田 真也(八王子富士森道院)

高橋 千恵子(東京国分寺道院)

高島 博司(東京千代田道院)

橋 東幸(下高井戸南道院)

大橋 麟太郎(下高井戸南道院)

細田 利江子(東京国分寺道院)

上原 茉莉奈(八王子西道院)

和田 優(国立道院)

井関 研二(中板橋道院)

杉田 麻美(八王子西道院)

高山 広之(国立道院)

内野 文敬(東京南品川道院)

足立 健一(東京国分寺道院)

高橋 良治(神奈川大和道院)

湯浅 智基(横浜都筑道院)

筒見 尚輝(横浜片倉道院)

古村 徹也(横浜片倉道院)

熊耳 節雄(新潟亀田道院)

下村 耕紀(柏崎道院)

川上 貴義(福井旭道院)

西尾 成剛(福井社道院)

林 明良(福井旭道院)

澤田 龍徳(岐阜白山道院)

山本 敏弘(岐阜白山道院)

杉山 繁男(岐阜白山道院)

小池 康治(八百津道院)

牧田 忠男(藤枝道院)

松久 正俊(日進南道院)

宮地 優祈(日進南道院)

前田 智子(三重多度道院)

加藤 竜馬(三重いなべ道院)

樋口 健世(三重津城北道院)

岡本 勇郎(京都鴨川道院)

三好 栄二(京都鴨川道院)

森川 春菜(洛東道院)

山井 誠也(大阪高槻道院)

福元 強一(美原西道院)

田村 知嗣(大阪北道院)

原田 仁文(西宮用海道院)

藤原 謙吾(三田南道院)

芦田 悠(篠山中部道院)

澁 和輝(神戸東道院)

吹上 史朗(神戸板宿道院)

小林 駿平(神戸東道院)

西村 佳孝(大和真菅道院)

斉藤 登美男(美作勝央道院)

小野 光広(広島竹屋道院)

大平 育正(福山東道院)

藤井 大輔(福山東道院)

中川 祐基(福山東道院)

松崎 一輝(福山東道院)

川上 功嗣(福山東道院)

田中 亘(讃岐白鳥道院)

ライアン スケルトン(愛媛飯武道院)

松崎 公一(北九州八幡道院)

阿南 成一(別府上人道院)

岡部 美貴子(別府上人道院)

新貝 隆(別府上人道院)

高橋 友和(別府上人道院)

お布施

藤岡宏先生七回忌

▷藤岡一門会 70,000円

播磨山崎道院設立45周年記念

▷播磨山崎道院 20,000円

栃木足利道院設立25周年記念

▷栃木足利道院 30,000円

帰山

▷田辺西道院 10,000円

布施

▷2019年度宗道臣塾

ショートプログラム受講生有志一同 30,000円

▷北海道教区 10,000円

▷伊那道院 小池靖彦 10,000円

▷碧南南道院 石川光彦 10,000円

▷愛知上里道院 民谷敏夫 10,000円

▷豊田末野原道院 服部俊美 10,000円

▷大阪津田道院 大津好央 10,000円

▷高砂道院 大内信弥 10,000円

▷禅林学園校友会 10,000円

▷善通寺中央道院 小野哲 3,000円

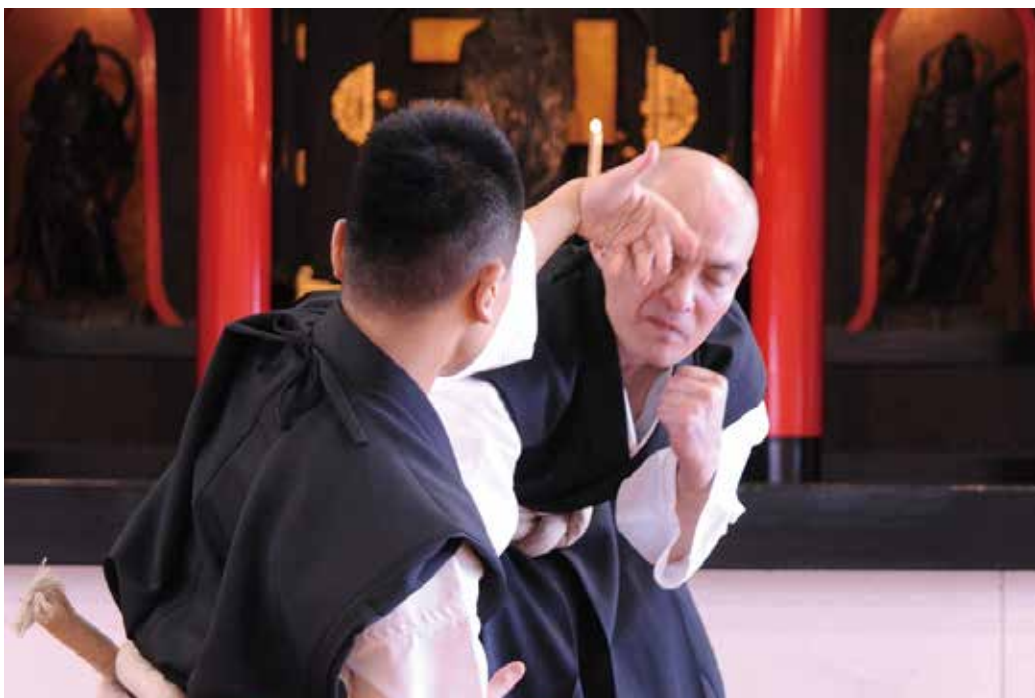
公認講習会

▷岩手県教区・宮城県教区 30,000円

▷福島県教区 30,000円

▷埼玉県教区 30,000円

▷三重県教区 30,000円



宗門の**行**としての少林寺拳法

3つの視点を持つ

少林寺拳法の修練を通して、彼我の関係を俯瞰^{ふかん}する能力を身につけることができる。

これは、社会においても家庭においても穏やかに過ごすうえで必要な能力である。

自身の視点、相手からの視点、全体を俯瞰する視点。これら、3つの視点から判断し行動^{うご}することが、「半ばは自己の幸せを、半ばは他人^{ひと}の幸せを」の実践につながっていく。



義和拳第一系 相対

金剛禅総本山少林寺公式サイトで
動画をご覧いただけます。

撮影／志村 力 文／中川 純 演武者／中川 純 正範士七段・富田雅志 大拳士六段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法